

(資料提供)

月 日	担当館名	電話	担当者
4月14日	県立近代美術館	Tel. 088-668-1088 Fax. 088-668-7198	学芸員 安達 森、吉原

所蔵作品展「徳島のコレクション 2009-II 新収蔵作品を中心に」の開催について

1 趣旨

この展覧会は、徳島県立近代美術館の所蔵作品を紹介するものです。

所蔵作品展は、当館のコレクションの方針によって、「20世紀の人間像」「徳島ゆかりの美術」「現代版画」の3つのコーナーに分かれています。

今回は、平成20年度に新たに収蔵した作品を中心とした展示を行います。

2 会期

2009年4月18日(土)～7月20日(月・祝)

会期中、現代版画のコーナーは3期に分けて展示替えを行います。

また、その会期に合わせて、他のコーナーでも一部展示替えを行います。

3 会場

徳島県立近代美術館

[展示室1、展示室2、美術館ロビー、屋外展示場、彫刻の小径]

4 開館時間

午前9時30分～午後5時

5 休館日

月曜日(5月4日は開館します)

5月7日(木)

6 観覧料

一般 200円(160円)

高・大生 100円(80円)

小・中生 50円(40円)

※()内は20名以上の団体料金。

※高齢者(65歳以上)と障害者は、割引があります(半額)。

※祝日及び振替休日は無料です。

※小・中・高生は、土・日・祝・振替休日、春・夏・秋・冬休み中の観覧料が無料になります。

7 関連事業

【学芸員による展示解説】

・4月29日(水・祝)

・5月30日(土)

・6月28日(日)

時間：いずれも午後2時～2時45分

場所：展示室1、2(2階)

解説者：安達一樹(専門学芸員)

※4月29日は祝日のため全ての方が無料で参加いただけます。

※土・日曜日は、一般・大学生の方は観覧券をお求め下さい。(小中高生は無料)

8 出品内容

当館の収集方針にあわせて、3つのコーナーで展示します。

【20世紀の人間像】新収蔵作品を中心に（展示室1）

今回は、平成20年度の新収蔵作品を中心とした展示です。人間像をテーマとした作品で、新たにコレクションに加わったのは、坂井淑恵（さかい よしえ）の《間の人》（あいだのひと）です。

坂井は1965年千葉県に生まれ、93年京都市立芸術大学大学院を修了しました。2000年には40歳以下で推薦を受けた作家が新作を発表するVOCA展（上野の森美術館）に出品し、奨励賞を受賞しています。この《間の人》は1995年の作品で、坂井が自らの画風を確立した時期のものです。

この坂井が美術界に登場した、1990年代初頭は、いわゆるバブル経済から失われた10年へと社会が転換する時期に当たります。これに合わせて、このコーナーでは1980年代後半以降の作品を中心に展示します。そこに表された人間像には、時代が端的に映されているように思われます。

○ 出品点数：全48点（新収蔵1点）

（内訳）

4月18日〔土〕－5月17日〔日〕 35点（今期のみ6点、全期間展示29点）

5月19日〔火〕－6月21日〔日〕 35点（今期のみ6点、全期間展示29点）

6月23日〔火〕－7月20日〔月・祝〕 36点（今期のみ7点、全期間展示29点）

【現代版画】新収蔵・上前智祐の版画（展示室1）

■ 上前智祐の版画1 4月18日〔土〕－5月17日〔日〕

■ 上前智祐の版画2 5月19日〔火〕－6月21日〔日〕

■ 上前智祐の版画3 6月23日〔火〕－7月20日〔月・祝〕

平成20年度には、上前智祐（うまえ ちゆう）の版画133点が寄贈されました。上前は、版画だけではなく絵画や立体、布や糸を用いた縫いによる作品など多様な制作を行っています。この度の寄贈は、上前が版画の制作を始めた1980年から2005年までの作品群で、版画作品の全貌に近い内容となっています。それらを3期に渡って紹介します。

上前は1920年京都府に生まれました。吉原治良に指導を仰ぎ、54年吉原が率いる具体美術協会の結成に参加、72年の解散まで在籍しました。上前は、吉原に師事してからは、一貫して非具象絵画を追求し、画面全体を覆う緻密な点と線、絵の具や物質の重なり合いを特徴とした作品を制作しています。版画でも、同じ版を使いながら色を変えてみたり、版をずらしたりするなど、具体美術協会のころから続く実験精神がうかがえるものとなっています。

○ 出品点数：全132点（新収蔵132点）

（内訳）

4月18日〔土〕－5月17日〔日〕 67点（今期のみ67点）

5月19日〔火〕－6月21日〔日〕 43点（今期のみ43点）

6月23日〔火〕－7月20日〔月・祝〕 22点（今期のみ22点）

【徳島ゆかりの美術】新収蔵作品を中心に（展示室2）

このコーナーでは、県出身や徳島ゆかりの作家の作品のほか、徳島の風景や風物に題材をとった作品などを展示します。

今回は、平成20年度の新収蔵作品を中心とした展示です。

県出身作家では、石丸一（いしまる はじめ 1890-1990年 現・小松島市生まれ）、喜井黄羊（きい こうよう 1901-97年 現・美波町生まれ）、清原重以知（きよはら しげいち 1888-1971年 現・阿南市生まれ）、三宅克己（みやけ こつき 1874-1954年 徳島市生まれ）の作品や資料が寄贈されました。

石丸は、初期から晩年までの変化に富んだ画風の作品、喜井は戦前期の屏風、清原は本館の所蔵作品〈雪暮れ〉（1937年 第1回新文展出品）とほぼ同じ図柄の小品です。

また、県外の作家が徳島の風物を描いた作品として、大野俊明（おおの としあき）、竹内浩一（たけうち こういち）、中野嘉之（なかの よしゆき）から、2007年に当館で開催した「日本画－和紙の魅力を探る」展への出品作品を寄贈いただきましたので、ご紹介します。

○出品点数：全34点（新収蔵15点）

（内訳）

4月18日 [土]	－5月17日 [日]	23点（今期のみ7点、全期間展示16点）
5月19日 [火]	－6月21日 [日]	22点（今期のみ6点、全期間展示16点）
6月23日 [火]	－7月20日 [月・祝]	21点（今期のみ5点、全期間展示16点）

このほかに、美術館ロビー、屋外展示場、彫刻の小径に12点を展示します。

○総出品点数（会期中展示替を含む総点数）：226点（新収蔵148点）

4月18日 [土]	－5月17日 [日]	137点（今期のみ80点、全期間展示57点）
5月19日 [火]	－6月21日 [日]	112点（今期のみ55点、全期間展示57点）
6月23日 [火]	－7月20日 [月・祝]	91点（今期のみ34点、全期間展示57点）

○分野別内訳：（会期中展示替を含む総点数）

油彩画他 37点、日本画 16点、彫刻・立体 20点、版画 132点、水彩画 8点、素描 1点、写真 12点